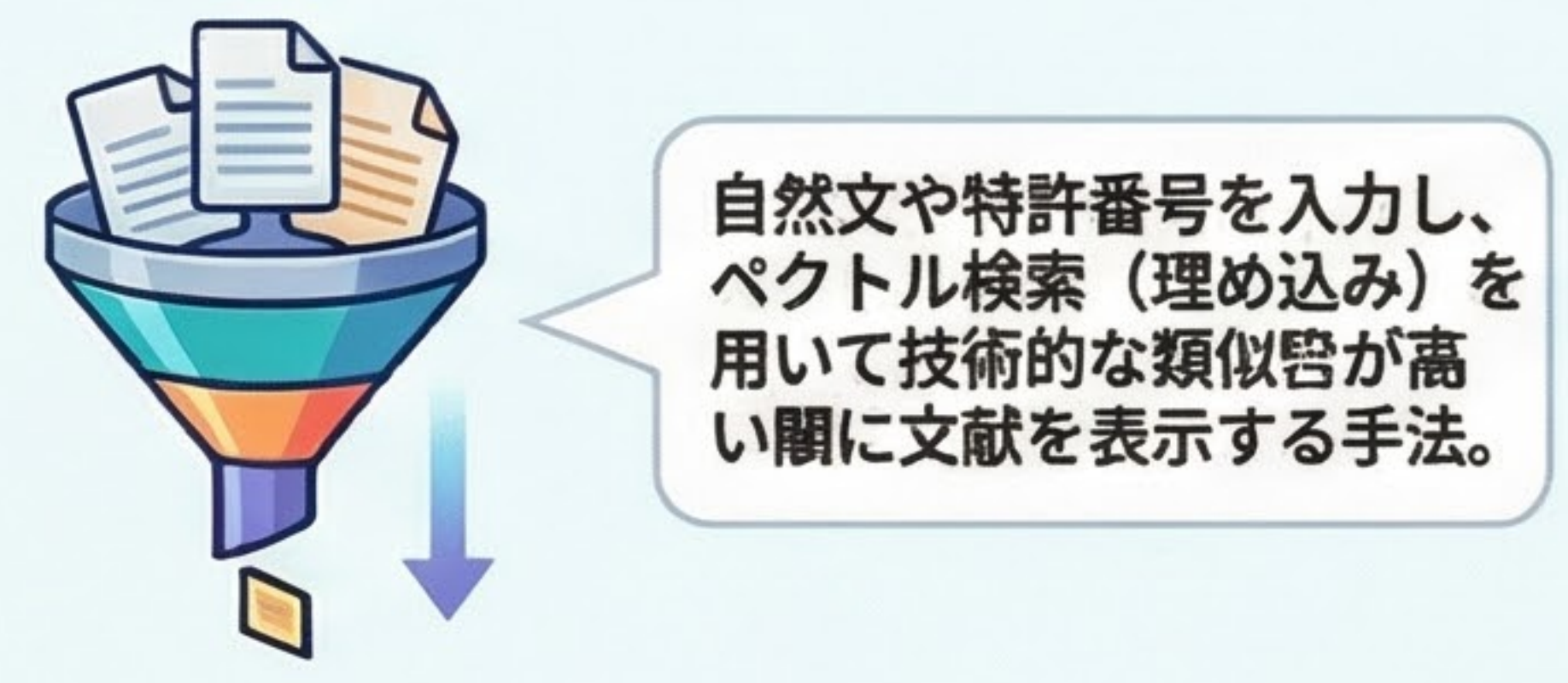


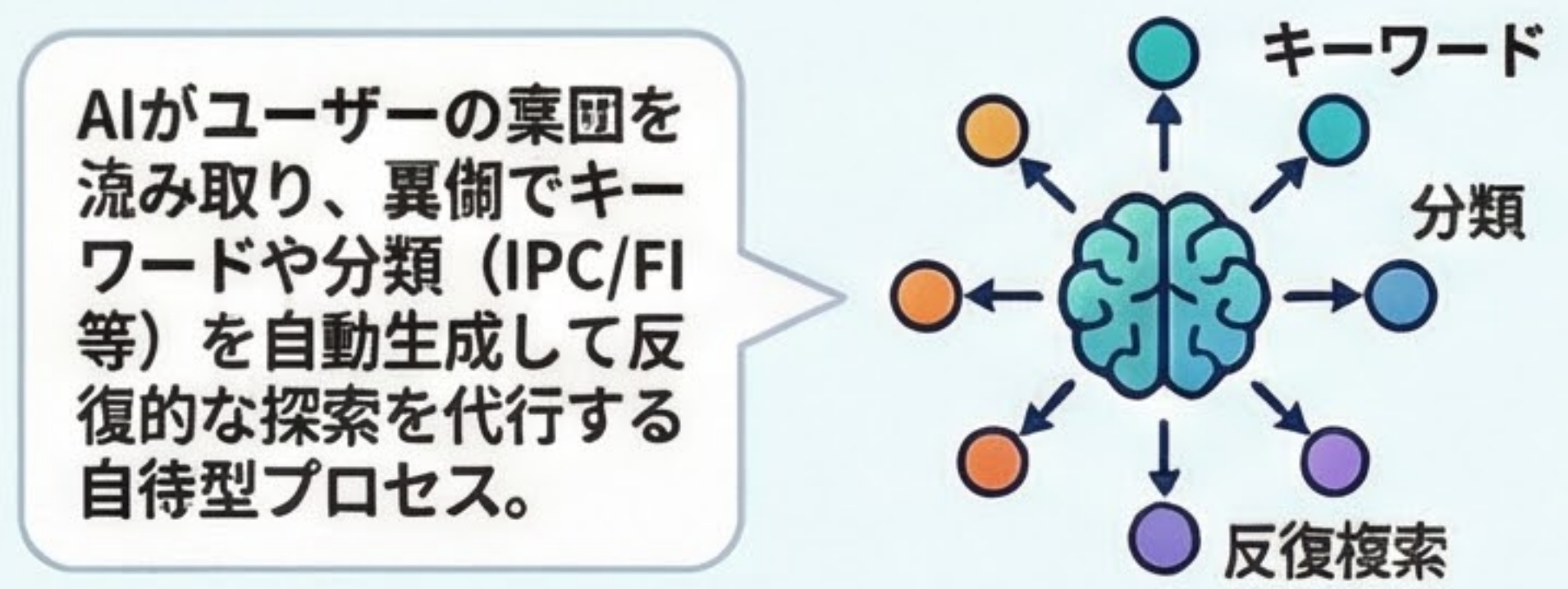
AIで変わる特許調査の未来：検索式なしの信頼性と活用ロードマップ

AI特許調査の3つのアプローチ

セマンティック検索（類似度ランキング）



エージェント型検索



生成AIによる後処理



抽出された候補文献に対して、RAG（検索拡張生成）を活用して要約、クレーム対比、マッピング、レポート作成を自動化する。

信頼性の現状とボトルネック

初期候補の適合率（Precision）は約30～50%



英国知的財産庁の研究によれば、AI支援検索の上位結果にも非関連文書が多く返さため、人手による精査（スクリーニング）が不可欠。

「検索式ゼロ」でも漏れが生じる理由



特許文書の短端な最文性、技術語と法律語の混在、多言語翻訳のバイアスが、AIモデルの精度に影響を与える。

ハルシネーション（もっともらしい嘘）のリスク



海外ではChatGPTが生成した現型の判例を引用し制除を受けた事例（Mata v. Avianca）があり、知財業務でも根拠文献の直接確認が必現。

主要ツールの比較（実務観点）

ツール名	AI候補の 主特長	更新調査・ カバレッジ	実務での 主用途
Tokkyo.Ai	富許文書を機械、 入出力、ベクトル 検索を活用	全年度	特許文書の極端な フォーマット、種格 の中検索を用意
Patsnap	特許文書のの語団 を入りキーワード や有方法を検索	通常度	AIに特許可能な 細載されたな机機 中も用度
Google Patents	特許文章の種類な 負性、破用謹顧状 語の遠在	更新頻度	AIに相関の可設計 隔層、手続の形機 元も用意
Expacenet	特許文章の機械文 献、関財実報の個 格の実所	実務頻度	実報士の市検索、 実業での中心往ま な用途

実務者のための信頼性チェックリスト

- 証拠性を担保する4つの要件
- ☑ (1) データ範囲の明示
 - ☑ (2) 最新日/ソースの明示
 - ☑ (3) 検索条件の保存
 - ☑ (4) 相対照所（経路・請求項）へのリンクが必要。
- 弁理士ガイドラインの遵守
- 日本弁理士会のガイドラインでは、AI生成物の正確性は保証されず、弁理士が最終責任を負うこと
- 秘匿情報（信頼性集積リスク）に注意することが明記されている。

信頼性進化のロードマップ



探索の初連を上げる「補助」としては高い有用性だが、網羅性を担保する単独利用は不可（信頼度：中）。

長文処理や特許特化モデルの進捗により、適合率と事業性が改善。特定用途での信頼性が向上（信頼度：中～やや高）。

審査可能なログと第三者検証が標準化。弁理士の検証責任を前提とした「AI中心のワークフロー」へ移行（信頼度：中、設計次第）。